

～ 中 原 区 地 域 教 育 会 議 ～

<重点方針>

1. 青少年の地域での活動を振興し、健やかな成長と発達を支援するため、家庭教育、学校教育、社会教育と連携した事業を実施し、区内のネットワーク化を図る。そのため、区内中学校区地域教育会議との連携・支援を推進する。
2. 地域の人々が、日常的に地域の教育に参加し、行政に住民の意見を反映できるように、中原区独自の意見・提案を整理、集約し提言を行う。
3. 地域の教育のために活動する町内会、子ども会、地域の団体等と連携・協力し、新しい時代の教育の振興を図る。

～第29回中原区こども会議～

日時：令和6年1月21日（日）

テーマ『みんなで作ろう！カラフルマップ』

中原区の地図を囲みながら、中原区の良いところ・変えていきたいところ・理想の中原区の三点について話し合った。

今回は最初子どもたちだけで話しあい途中から子どもたちが話しあっている場に大人が記録として入り、交流する場をもった。

最初は緊張していた参加者の子どもたちも少しずつ気持ちがほぐれ、積極的に意見を伝える姿も多く見られ、子どもたちにとっても参加した大人実行委員にとっても、実りのある1日となった。

《子ども会議研修修習会》

サポーターのリードと助言のもと進行の練習や意見のまとめ方などを学んだ。また体を動かしたり、話す時間を多く持つことができ、信頼関係をきづくことができた。

《なかはら子どもみらいフェスタ》ワークショップ出店

地域の子供達に対し積極的に声掛け、小さい子に対し優しくサポートを行っていた。活動によって子どもたちの成長を感じることができた。

《地域清掃》

月に1度第三日曜日の午前中に地域のごみ拾いを行っている。

～第35回教育を語るつどい・ 第53回保護者と教職員のつどい～

日時 令和6年2月3日（土）

会場（市民館）とZoomで開催

テーマ

肩を張らずに生きよう

～思考（メンタル）の替え方～

・講演 松前 兼一氏

・実験&質疑応答

内容

*「徳」という感じはぎょうにんべんに十四の心と書く14歳という時期はとても大切と感じる。

*14歳のころの自分が今の自分を見たときにどんな言葉をかけるかというワークを行ったことがある。

*会社の代表を務めていたころはこのワークであまり良い言葉をかけることができなかったが、40代で人生の転機が訪れ、大変な時期にこのワークを思い出して行ってみたところ「かっこよい」と言われた。

*頑張って成功すれば経済的な幸せや充実感があると信じてたが、実際はなかった。

*幸せを感じることに、7つのゆ

「ゆっくり、ゆるめ、ゆるして、ゆだね、ゆったり、ゆずって、ゆらいで」生きることを実践することにより、成功は後からついてくることを感じている。

*日々あわただしさに追われ、余裕をなくすることが多い中、先生がおっしゃった7つの「ゆ」を思い出して自分の中に幸せを見つけていくことの大切さを学びました。

中学校区地域教育会議交流会

（中学校区との交流及び地教育会議の活動について考える企画を実施）

1回目 10月 中学校区の事例発表、玉川中/住吉中学校区事例発表

また地域で活動されている方の情報交換をおこなった。

2回目 2月 ネットワーク会議の開催

最初に顔見知りになりつながることを目標に開催、委員同士の交流

参加されている方が地域でどのような活動をされているか知ることができた。

・広報紙「やじろべえ」の発行 3回

総会の報告や行事開催のお知らせなど、活動について広くお知らせすることができた。

たんぽぽちゃ
マスコット
ふわりーとぶらっど

